

学校学習創造支援プロジェクト委員会

はじめてのボールルームダンス(競)指導者養成講習会

平成21年度の第2期講習会が終了しました



体育館にリズムエクササイズの大きな輪ができました!

～子ども夢基金(独立行政法人 国立青少年教育振興基金)助成事業

文部科学省より教員免許更新講習に認定された「はじめてのボールルームダンス(社交ダンス)」指導者養成講習会」の第2期講習会は、10月17日・18日に長崎西洋館で行なわれた九州地区講習会を皮切りに全国6地区で順次開催され、250名余りが受講しました。

◎九州地区：10月17・18日

(長崎市・長崎西洋館2F展示ホール)

◎北海道地区：10月31日・11月1日

(札幌市・ダンススタジオ友)

◎東北地区：11月7・8日

(仙台市・アクアホール)

◎近畿・中国・四国地区：11月14・15日

(神戸市・三宮クレアホール)

◎中部地区：11月21・22日

(宮市・二宮スポーツ文化センター)

◎関東地区：11月28・29日

(東京都 中央区立総合スポーツセンター)

第2期・関東地区講習会レポート

平成21年11月28日(土)・29日(日)

中央区立総合スポーツセンター

第2期講習会の最後となった関東地区講習会は、55名の受講生を迎えて行なわれました。講習時間は

第1期講習会と同じ、2日間で10時間。講習1日目は学校学習プロジェクト委員の佐伯年詩雄先生(平成国際大学教授・筑波大学名誉教授)の講義からはじまりました。「ボ

ールルームダンスの教育的課題」をテーマにした講義の締めくくりに、佐伯先生は福祉先進国デンマークの老人施設を調査訪問したときの話をされました。それは、スポーツ・余暇活動に対する日本人と欧米人の認識の違い。

「世界一長寿の日本人がなぜ来たのかと言われましたが(笑)。彼らの話は、日本人は健康のためにスポーツをするのか、自分たちはスポーツをしたいから健康であろうとする、ということなんです。ダンスは人と人との和、付き合いを良いものにしますが、良くするためにダンスがあるわけではないんです。楽しむことで、結果として人間関係も良くなる、そのことを間違えないでください」

◎試験はやっぱり緊張

第2期の実技講習はサンバ、クイックステップ、ルンバ、タンゴの4種目。東京会場の講師は松村委員長、堀口宏副委員長はじめ堀口さと子、石塚紀子、島輝子、村田恭子の6名の先生が担当しました。

広い体育館でのびのびと準備体操を行なうと、早速、サンバの実技講習からスタート。第2期でも、まずその種目の音楽の理解、リズムエクササイズに重点がおかれました。音楽に合わせて手をたたく、足踏みをする、そして身体中でリズムをとりながら歩く。全員で手をつなぎ、体育館いっぱい大きな輪になってのリズムエクササイズ。笑顔になって、最初はバラバラだった動きが講習の終わるころには揃うようになっていました。少し慣れたところで、今回もグループ分けを行なう講習が進んでいきました。

「両日とも実技講習の後半には「教員免許更新講習・実技試験」が行なわれました。背番号をつけ、習ったばかりの4種目をリズム、シャドー、ペアで踊ります。3名の試験官が採点し、1期、2期の試験結果を総合して最終評価がつけられました。

新学習指導要領で、武道とダンスが保健体育の必修となったことは本誌でもお伝えしてきました。特に高等学校の指導要領では「社交ダンス」という言葉が明記され、中学校、小学校の指導要領には社交ダンスという文言こそありませんが、リズムダンスの解説の中には「サンバ」という言葉が書かれています。

「これまではダンスを採り入れたいと思っても、校長先生や保護者の理解が難しかったために断念していた先生もおられたと思います。それが堂々と学校へ入る道ができてきています。そしてJ B D Fには、学校から要請

があればすぐに対応できる体制ができています。政権交代によつて教員免許更新制度の廃止が言われていますが、たとえそうだとしても、いい変わり際にきていることは間違いないありません。ボールルームダンスがいい形で学校に入っていくチャンスですから、学校キャラバン隊の活動を含めて理解者・協力者を増やす努力を続けていきたいと思います」

(松村有希子委員長)



準備体操は大事です



手と足でリズムをとる受講生たち

試験風景。試験をする側から受ける側に